

生 命 倫 理 1

【単位数:0.5単位, 授業9コマ】

1 科目責任者

川崎 優 講師(哲学)

2 教育目標

(1) ねらい(I-1-c, I-2-c, I-4-c)

- ① コンピテンスの「プロフェッショナリズム」における「医療従事者に求められる態度」とはどのようなものか学ぶ。
- ② コンピテンスの「プロフェッショナリズム」における「多様な価値観」に関して、生命倫理の諸問題を題材としたグループワークでの対話をとおして、他者の多様な価値観について知る。
- ③ コンピテンスの「プロフェッショナリズム」における「基本的な倫理の4原則」とは何か学ぶ。

(2) 学修目標

- ① 倫理がなぜ人間に必要なのかを説明できる。
- ② 医療従事者に求められる態度について説明できる。
- ③ 生命倫理の諸問題をめぐる多様な価値観を説明できる。
- ④ 基本的な倫理の4原則について説明できる。
- ⑤ 生命倫理の諸問題に関する基礎的な知識を修得する。
- ⑥ 医療の領域において、どのような倫理的問題が生じているか説明できる。
- ⑦ 生命倫理の諸問題に対する自分の考えを説明できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績 対象	割合	方法・コメント
レポート	○	80%	授業の最終日にレポートを課す。
小レポート	○	20%	講義内で小レポートを数回課す。
態度	○	—	受講態度が著しく不良の場合は、総合成績の10%を限度に減点をする。

出席： 単位を修得するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

上記(2)で総合成績が60%未満の場合は、課題・レポートを課す。60%以上を合格とする。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

小レポートについては講義で解説する。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
考えよう！生と死のことー基礎から学ぶ生命倫理と死生学	波多江伸子， 寺田篤史， 脇 崇晴	木星舎	生命倫理の諸問題について端的にわかりやすく概説されている。
入門・医療倫理 I〔改訂版〕	赤林 朗〔編〕	勁草書房	生命倫理の諸問題について、より具体的な国内外の現状や哲学的議論が詳説されている。
看護のための生命倫理〔改定三版〕	小林亜津子	ナカニシヤ出版	タイトルに「看護のための」と記されているが、専門問わずおすすめの内容。

6 準備学習（予習・復習）

AIDLE-Kに講義資料が挙げられている場合には事前に内容を確認すること。また講義後に内容を再確認し、次回以降の講義に臨むこと（1コマあたり約1時間）。

7 授業計画

（１） 講義の方法

大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中にグループワークや講師との双方向性応答などのアクティブ・ラーニングも導入する。

（２） 講義の内容

生命倫理に関する基礎的な知識を網羅する。人工妊娠中絶や安楽死などの生命倫理の諸問題について、それらがどのような医療技術なのか、国内外でどのように規制されているのか、どのような点が倫理的に問題なのか学ぶ。基本的な倫理の原則の学習や思考実験をとおして、具体的な倫理的問題について考える上で役立つ倫理的思考力の基盤を培う。